

令和3年度 第3回豊橋市図書館協議会 会議要録

日時	令和4年3月3日（木） 10:30～11:40
場所	豊橋市中央図書館 第2、3会議室
委員	出席定数12名 8名出席
事務局	6名
議事	議題 (1) 令和3年度利用者アンケートの調査結果（速報値）について (2) 令和4年度の予算案の概要について 報告事項 (1) まちなか図書館の近況報告について
配付資料	議題 (1) 令和3年度利用者アンケートの調査結果（速報値）について (2) 令和4年度の予算案の概要について 報告事項 配布資料なし

<議事概要>

(事務局)

本日の会議は、委員の半数以上の出席があり、会議は成立している。

議題

(1) 令和3年度利用者アンケートの調査結果（速報値）について

事務局より、配付資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

【委員】

市民活動の豊橋ライターズで活動している。活動の中で、まちなか図書館の来館者の方に利用した感想を聞いてみた。まず、駅周辺で色々な世代に聞いてみたが、みなさん嬉しそうに「すごいのができた」と教えてくれた。

館内でも「利用しやすい」という感想が多かった。2歳の男の子を連れてきたお母さんが「子どもが小さいので利用するのを遠慮していたが、実際に来てみたら、子どもたちが少し騒いでも気にならない雰囲気なので、どんどん利用したい。」と仰っていたのが印象的だった。

また、建物自体の問題だと思うが、2階、3階の部分が図書館であることを知らない方

も多い。自転車置き場が分かりにくいといった意見も多かった。利用者からいただいた感想や意見は、豊橋ライターズでまとめ、冊子を作成するのでぜひ見てほしい。

【委員】

実際に行ってみて、見ないと分からないことが多い。そこが非常に重要だと思う。

【委員】

まちなか図書館が目指していたこととアンケートの結果はある程度合致しているのか。また、意外な結果があれば教えてほしい。

(事務局)

年齢層、利用時間については想定していた結果となった。今まで図書館の利用が少なかった世代にも多く利用されている。また、滞在型の図書館をめざした点も長い時間の利用が多いという結果につながっている。

公共交通機関の利用促進も考えていたが、今のところ、半数の方が車以外の方法で来館されていることも分かった。

資料の探しやすさについては、テーマ配架を初めて行ったため、様々な意見があるのは想定していた。配架方法に慣れていないことが原因で探しにくいのか、今後の様子を見ていきたい。

接客について高評価をいただいている。窓口業務を外部に委託しているが、スタッフの方々と職員とでお互い学び合えるところが良い点。外部の力も借りて、良いところを吸収し合い、運営していきたい。

【委員】

高校生は自転車での来館が多いと思うが、まちなか図書館の駐輪場は足りているか。

(事務局)

満車になっていることはない。場所が分りづらいという意見はいただいている。

【委員】

目的があって本を探す場合、検索機を使って探すことになると思うが、何台の設置があるか。

(事務局)

2階に4台、3階に2台ある。書架の近くにタブレット型の検索機を設置している。

(事務局)

駐輪場等が分かりづらいという点については、情報の発信の仕方によって分かりやすく告知できることもあるので、様々な手段を使って周知できるように努めたい。

【委員】

中央図書館へ冬場の夕方に来館した際、駐車場から館内へ入るまでがとても暗く感じた。改善をしてほしい。

【委員】

13ページのQ2②本や資料の探しやすさについてや、21ページのQ6図書館の居心地や快適さについての質問などで、中央図書館、向山図書館に比べて大清水図書館の満足度が高い印象を受けるが、どう分析しているか。

(事務局)

大清水図書館は平成27年に開館しており、施設や設備がまだ新しい。配架方法についても、基本的には分類別だが一部はテーマ配架を導入している。図書館として適度な広さであり、書架に余裕をもたせた配架ができています。インターネットサービスやCDの貸出などもあるため、バランスのよいサービスの提供ができています。

【委員】

館によって特徴や特性、不得意な面もあると思う。「こんなこともできる」という情報を広く発信していくべき。アイコンの使い方や、デザインの仕方など、まちなか図書館がベンチマークになるのではないか。図書館全体として戦略を立て、情報発信の底上げをしていくのが良いと思う。

【委員】

図書館では「レファレンス」という言葉を使うが、例えば「本の相談窓口」とした方が分かりやすく、利用しやすいのではないかと感じる。レファレンスというだけで敷居が高くなっているように感じる。

【委員】

本の相談業務は司書が行うのか。

(事務局)

司書資格を持っていない職員も対応している。相談の内容にもよるが、司書資格を持った職員の方がより利用者にあった資料の提供が行える。より良い資料の提供ができるよう

に司書であるないに関わらず、努めていかなければならない。

(事務局)

レファレンスという言葉の難しさもあるが、本について聞いたり、相談したりすることが図書館で、できることを知らない方もいる。まずそれを知っていただくための工夫が必要。

【委員】

図書館に行けば、教えてもらえる、必要な資料が得られることを、周知できれば利用が増えるのではないか。

(2) 令和4年度予算案の概要について

事務局より、配付資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

<質疑応答>

【委員】

110周年事業の具体的な話は、いつ頃発表されるのか。

(事務局)

内容については現在固めているところだが、ゴールデンウィークまでには報道発表などができる予定でいる。

報告事項

(1) まちなか図書館の近況報告について

各委員より以下の意見・質問があった。

【委員】

外部から企画を持ち込みたい場合はどうすれば良いのか。

(事務局)

相談をいただければ、企画の内容をお聞きし、館内の企画会議に諮った上で、実施の可否を判断する。

【委員】

企業からの、利用者の方へ情報を発信したい旨の問い合わせや要望はあるか。

（事務局）

よくお問合せ等いただいている。内容が利用者にとって有意義なもので、図書館で開催する意義のあるものであれば、開催している。

【委員】

地元企業はリクルートの課題もあり、若い人達に自分たちの会社のPRをしたいと考えている。図書館で地元企業の課題に手を差し伸べられる、柔軟な方法があると良い。

全体を通しての意見等について

【委員】

中心市街地の現況をみると、まちなか図書館を含めたemCAMPUS周辺の開発が進んだことで、人の流れも新しく生まれてきている。それに合わせてお店を開きたいという動きも出てしていると聞く。図書館等がまちなかの賑わいや交流を生み出す施設として期待が高くなっている。